

庭を食べる

～未来へつなぐ緑のシェアハウス～

【使用材料】
構造部材：割り箸、竹串
屋根・壁・床：厚紙

材料費：4071円

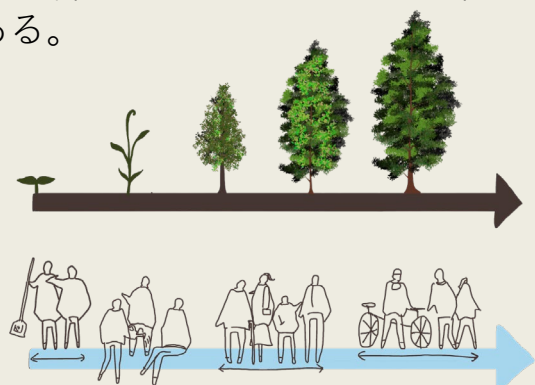
「おっ、そろそろ食べごろだな」

家の中心にそびえたつヤマボウシの木を見上げながら、ジャムでも作ろうかと胸を膨らませた。

この家の植物にはすべて『旬』がある。正面のヤマボウシはもちろん、北庭のギンバイカやドクダミなど美しい花を咲かせるこれらは、旬がくると食卓にあらわれるのだ。

〈敷地設定〉

ビルや商業施設が建ち並ぶ、都市から少し離れた住宅街。屋根を突き破るほどの大きなヤマボウシが特徴的なこの家は、地域の人たちからも愛される『緑のシェアハウス』である。ここは、大学生や会社員、アーティストなど年齢や性別、国籍を問わず誰でも住人になることができる。



▽隣地境界線 (13500)



△道路境界線 (13500)

1階平面図兼配置図 1/100

○植物の成長環境に配慮した3つの庭

この家では、約15種類の草花、木が育てられている。水はけや日当たりなど、植物によって好まれる環境が違うため、それぞれの特徴を捉えた3つの庭が配置されている。

池のある西庭：

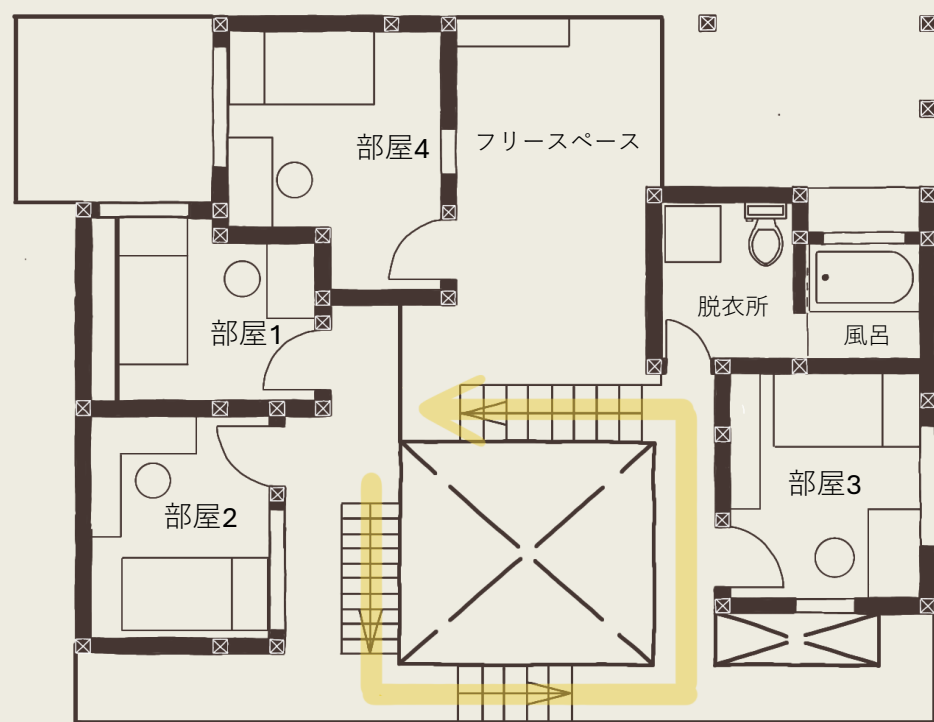
ここでは、普段河川敷や小川など、水の周りに生息している草花を栽培している。

光を浴びる南庭：

南向きのここは、目の前が道路でひらけており、1年を通して沢山の日光を浴びることができる。

木陰のできる北庭：

あまり植物を栽培するのに向いていないと言われる北向きの庭。ここでは強い光に弱いクロモジや西洋ニワトコなどを栽培している。



2階平面図 1/100

・1階は玄関を設置せず自由に入出りができる。これは、シェアハウスならではのつくりである。住民だけでなく、地域の人たちもとの集まりにも利用するため開放的なつくりとなった

また、コンクリートの床になっているため、靴を脱がず土足のままで利用する。収穫や手入れをした際に土がついたままでも気にすることがない

・ヤマボウシを囲むようにかかる階段は、登りながら気と同じ目線または上からも自然を楽しむことができる

・2階には、個人の部屋を螺旋状に配置した。2階建てだが、それぞれの部屋の高さはバラバラである。同じ家に住みながら、それぞれ見える景色が異なるという特徴がある。

・収穫したものを保管するために北陽が当たらない位置に食糧庫を設置した。調理場から北庭までの一連の家事動線を配置し作業をしやすくした。



↑屋根の形状

【←水をあつめる屋根】

雨が降ると、屋根の上を雨水が伝わり、中央のヤマボウシに向かって落ちていく。

【→東西を通る風の道】

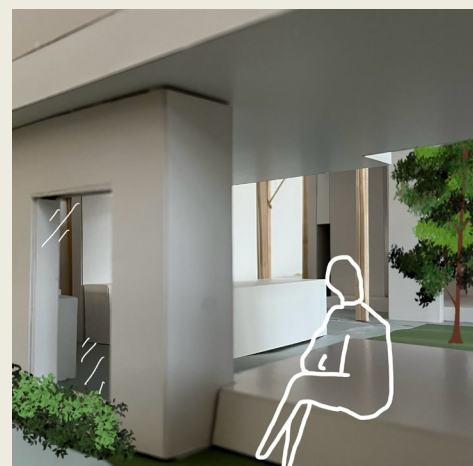
天井までの高さを有効活用し、ジグザグな棚を取り付けた。



↑風の通り道

〈地域交流〉

季節がやってくると、住人たちは協力してヤマボウシの装飾を行う。これは、地域の人や子供たちとパーティーを開くからだ。また、採れた草花で一緒に料理を作ったり、お茶をしたりもする。人々を楽しませるこの木は、地域のシンボルツリーでもあった。



↑南から見た正面



←調理場と↑西庭を見渡せる小上がり

吊り橋のような揺れる階段：ツリーハウスをイメージ。実際に木に登っているかのような揺れや風を感じることができる
また、屋根の湾曲したフォルムと一体化

屋根はかかっているが、1階全体に光が入り空間を共有している

〈面積表〉

- ・敷地面積 148.5㎡
- ・建築面積 102.5㎡
- ・1階床面積 70.4㎡
- ・2階床面積 94.4㎡
- ・延べ床面積 164.8㎡
- ・容積率 111%
- ・建ぺい率 69.0%